

## 甲斐駒ヶ岳山行記録



目的地	甲斐駒ヶ岳（仙丈ヶ岳は降雨断念）	期 日	平成18年7月16～17日（日・祝）：（前夜現地入り）
山人	笠原正雄・澄子	特 記	新潟県と隣県がすべて雨予報。少しは良い方面へ向かう。

地名	(着)～(発)	天候	記 事
与板（前夜発）	午後6:45発	小雨	西山～信濃町間高速通勤割引。信濃町から再度高速に入り直して伊那ICまで。途中小布施SAで弁当夕食。雨が降ったり止んだりの走行。
伊那市長谷村 南アルプス村	午後11:00	曇	10数km手前の道の駅の駐車場に入る。車中泊。同じく既に止まっている車が10台程あった。又、その後入ってくる車もあった。284km。
仙流荘 P	16日朝4:00	雨	時計を見間違えて予定より1時間早い3:30に移動する。バス停そばPに止め仮眠する。Pは満車。朝食・準備後6時発の林道バスに乗る。
北沢峠長衛荘	7:45発	〃	宿泊小屋に必要な以外の荷物を預け、1つのザックで雨具歩行開始。樹林の急斜面から始まる。ジグザグ道の登りで高度を稼いで行く。
下山者と合う	9時前後	〃	時折の風がやや寒く感じる。数人や数隊が雨のため諦めて下って来る。
双児山	9:20～9:40	曇	駒津峰迄で下山の若者隊がいた。雨具の中に長袖を着て少し食べる。幾分小降りとなり僅か雲が切れる瞬間がある。ここからは灌木から樹林の下りへ。登り返して森林限界を過ぎると広々としたガレ場の登り。
駒津峰	10:20～10:35	〃	稜線尾根に出てピークに上がる。仙水峠からの上山者も加わって10数人が居た。ガスの切れ目で山梨側が見下ろせる。鋸岳が見え隠れする。行く手の登路に人に見える。一瞬ではあったが、山頂が姿を見せた。
六方石	11:05	〃	灌木から喬木に変わっていく岩稜の急降下で多くの下山者と行き交う。鞍部の巨岩に出てここから登りとなる。右手の巻き道に行く。花崗岩砂に登路、時折突風となる。右手に摩利支天が見えて来た。この分岐を過ぎてUターンするように回り込んで山頂へ向かう。
甲斐駒ヶ岳山頂	11:50～12:45	曇～雨	着いてすぐ祠の前で写真を撮って貰う。何人かがランチ等で休んでいた。風邪がやや強く岩と岩の間にシートを敷いて陣取る。雲の中で展望は無い。昼食を食べ終える頃から雨が当って来た。下山開始。カメラのレンズが曇って写真を撮れない。摩利支天も今度中はガスの中だ。
六方石	1:25	雨	今度は登り返しとなる。途中レンズを拭いて何とかコケモモを撮影。
駒津峰	1:50～1:55	曇	双児山への道を右に見て、ピークの分岐を左に降りる。
仙水峠	2:50	〃	晴れなら摩利支天を振り返り、仙丈を見ながらの下りだが、裾が見えるのみ。時折山梨側の下界が見える。岩混じりの急降下となる。樹林帯を下ってのち、岩のゴロゴロした峠に出る。栗沢山分岐を右折する。
仙水小屋	3:15～3:30	〃	峠から15分程岩礫の道が続き、樹林帯に入る。小屋脇ベンチにザックを置き休む。明日登頂予定という若い女性と会話する。ここから沢の流れに沿って下る。更に同様予定の10数人隊が上がって来た。
北沢峠長衛荘 （素泊り）	4:05着	〃	北沢駒仙小屋に出ると林道歩きとなる。左下河原に幕営が多数あり。更にバス林道に上り長衛荘に戻る。外のテーブルで夕食。7時過ぎ就寝。

飯豊大日杉から御西を計画した。しかし予報は悪い。方々を検討した末、ここに向かった。1日目は登頂出来たが2日目は未明から強い雨が断続して降り、諦めた。16日午後小屋に入り17日登る予定の者もいたが、大半が朝1番のバスで北沢峠を下った。初日だけでも登ることができたのは良い方だ。さすがに百名山だ。連休ということもあってか結構大勢の入山者であった。この翌日、長野県の同地域周辺で大雨による土石流等の災害が報じられた。